

こま え 狛江水辺の楽校

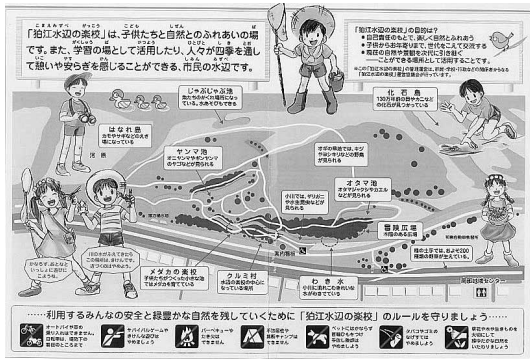
受賞機関 狛江水辺の楽校運営協議会

事業の概要・特徴

狛江水辺の楽校は、子どもたちと自然とのふれあい体験の場であると同時に、学校では環境学習の場としての活用や、人々が四季を通じて憩いや安らぎを肌で感じることができる市民の水辺である。

当地区の整備は、今ある自然環境を生かしながら、安全に水辺に近づける利用面の整備とワンドの復元など、必要最小限の整備としている。

また、このエリアの維持管理は、市民・学校・行政関係者からなる「狛江水辺の楽校運営協議会」が行っていて、昆虫や野鳥、魚類、水質などの様々な調査や環境清掃など様々な活動を行っている。



水辺の楽校平面図

事業の成果

当楽校の活動は、水辺の楽校の良好な先進事例として、全国各地からの事例調査やTVの取材も受けるなど、地域はもちろん全国的にも高く評価されている事業である。

当該地区では、市民・学校関係者・行政関係者からなる協議会により意見交換を行いながら事業を実施している。日常の活動や年間スケジュールは市民が主体となって計画・立案をしている。

活動の広報などは、「楽校通信」の毎月の定期発行やポスター・チラシによる呼びかけを実施している。

また、水辺の楽校の活動で学んだことをシンポジ

ウム形式で発表会を行うなど、子ども・先生・保護者・行政がみんな同じ立場で教え合ったり学んだり楽しんだりする場を設け、活動する関係者以外にも、多摩川における環境・歴史について幅広い情報発信を行っている。

当楽校の初年度（H13）の活動は、18行事を実施し、699人の参加があり、次年度（H14）は1,142人と約倍近い参加人数であった。年々活動も活発化しており、子どもたちの健全な成長と河川環境等への意識の向上について、利用者や地域の関係者から高い評価を受けている。

具体的な活動の内容は以下のとおりである。

- ・ 市民主導の協働運営による活動運営
- ・ 過去の洪水（多摩川の決壊）を介して学ぶ、多摩川の歴史
- ・ 自然観察から学ぶ、河川環境や河川愛護
- ・ 身近にある自然環境への関心
- ・ 流域との交流（多摩川源流への自然体験）
- ・ 川の安全管理に対する理解（危険回避の仕方）
- ・ 環境保全を目的とした「豊かな水辺づくり」「豊かな河畔林づくり」「豊かな生態系づくり」の3つの柱
- ・ 総合学習を目的とした学校からの要請に基づく人材の派遣



水辺の楽校活動実績事例

賛助会員 三井共同建設コンサルタント(株)